

令和4・5年度 長崎県教育委員会研究指定

令和4・5年度 松浦市教育委員会研究指定

研究紀要

研究主題

自ら学びに向かう鷹島っ子の育成 ～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～

テーマ設定の理由

令和4年度全国学力・学習状況調査の算数科の結果は伸びた部分も見られたが、全国平均を下回っており、課題が見られた。

これは、授業で習得した概念を活用して課題解決を行う力が不足していることや、家庭での学びと学校での学びがうまくつながらないことなどが原因であると考えられた。

そこで本校では、家庭での予習を位置づけた新たな指導過程「予習（家庭）、展開、終末、習熟、導入」を構築し、ICTを効果的に活用しながら、習得した概念を活用して課題を解決する学習の充実を目指すこととした。

また、家庭学習の在り方を見つめ直し、やらされる家庭学習ではなく、児童自らが取り組む家庭学習への転換を図るとともに、家庭での学びが学校での学びに生かされるサイクルを確立することを目指した。



松浦市立鷹島小学校

研究の概要

【学校教育目標】

夢いっぱい 笑顔いっぱい かがやく たかしまっ子の育成

【研究主題】

自ら学びに向かう鷹島っ子の育成
～長崎県「学びの活性化」プロジェクトの実践～

【研究の3つの視点】

- (1) 予習型授業と家庭学習を連動させることで、家庭学習が活かされる授業システムによる理解の深化と習熟を図る。⇒『確かな学力』
- (2) 積極的に chromebook 等の ICT を活用させることで、個別最適な学習の場を提供し、自律的な学習へと導く。⇒『自律』
- (3) 内外からの刺激を意図的に与えることで、支持的風土を土台としながらも互いに切磋琢磨する学級集団を目指す。⇒『メタ認知・レジリエンス』

【A 算数の予習型授業の指導過程】



【B 個別最適な家庭学習】

【土台となり、支えている諸活動】

C 新聞・読書の推進

D ICT 活用スキル
向上の取組

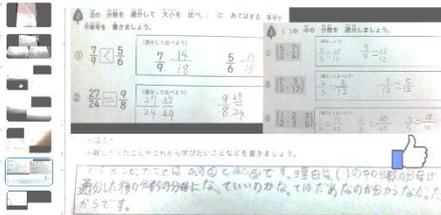


E 児童の学びの自覚化

F 保護者・地域との連携

自ら学びに向かう鷹島っ子とは

自分にとって難しい予習でも、友達の見意見を参考にして、自分なりに考えている。(予習として、ノートの画像を提出しているスライド。左には他の児童が提出したスライドが写されている。)



自ら学びに向かう鷹島っ子の姿の例

わからない友達に、図や表、式などを使ってなんとか説明しようとしている。



友達の操作を見ながら説明を聞き、説明の仕方や内容についてアドバイスをしている。



習熟問題を次々に解き進める。

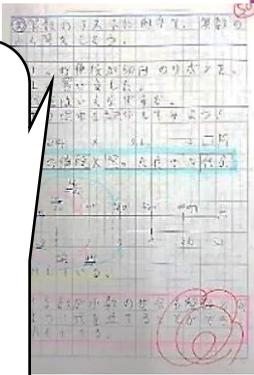
自分なりに工夫して問題を解こうとしている。



自分の課題に気づき、その解決のために、自分で取り組む問題を決めている。



今日の授業で学んだことをチャレンジノートにまとめたり、興味をもったことを自分で調べたり、次の授業の予習をしたりしている。



自分の言葉でめあてを立てたり、まとめたりしている。(教師に自分のめあてを確認してもらっている。)



自ら学びに向かう鷹島っ子の段階表

学びに向かう段階	学びに向かう状態	支援と主体性のバランス
<p>内発的動機づけ</p> <p>無動機づけ</p>	学ぶことが楽しいから取り組む	<p>児童主体の学習</p> <p>教師や親の支援</p>
	授業の役に立つから取り組む	
	先生が大切だと言っているから取り組む	
	やらないと恥ずかしいから取り組む	
	ほめられたいから取り組む	
	やらないと怒られるから取り組む	
	全く取り組まない	

研究の具体的な取組

A 算数の予習型授業の構築

予習

学校で予習課題を得た児童が家庭で課題解決を行い、その結果が妥当なものであるかどうかを翌日学校で検討する。その際、授業の指導過程は「展開」から始まり、「終末、習熟、導入」という過程を経る。本校では、この連続的な学びを予習型授業と定義した。

展開



自分の考えをノートを使って説明し合う。



撮影したノートを電子黒板で提示し、説明、質疑応答しながら課題解決へと向かう。

終末



授業での学びを自分の言葉でまとめたり、みんなの考えを集約したりする。

自分に合った学び方で学び続ける。教師は支援する。

習熟



教科書やプリント、デジタルドリル navima 等を活用し、自分の課題の解決に向かう。



導入

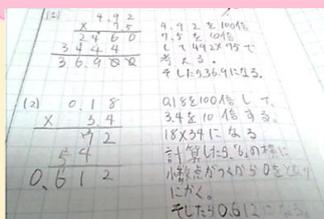


教師が、次時の課題を提示し、自分のめあてを立てさせる。

教師は、児童の予習を受け取り、児童の実態を可能な範囲で把握して授業に臨む。

予習

児童は、予習ノートを撮影し、教師に送る。授業前に、自分はどこができて、どこが苦手なのか把握した上で授業に臨めるようになる。



B 個別最適な家庭学習

これまで一斉に同じ課題を宿題として出していた家庭学習を見つめ直し、児童自身が今の自分の学びの状況を把握できる工夫、目的意識をもち学ぶことができる工夫を行った。また、一斉に同じ課題を宿題で出す場合には、授業と家庭とのつながりを意識した課題を出すこととした。さらに、児童の学び方の幅が広がるように、よい取組を紹介する活動の充実を図った。

- 毎日1回漢字小テストを実施した。理解度や定着度に合わせて、練習する漢字や量は自分で選ばせるようにした。
- 漢字小テストやチャレンジノートは、児童の学びの足跡が残るようにカードを活用した。
- 児童が代表委員会で話し合い、学級に応じた家庭学習の課題を達成することでパズルが完成していく活動を提案し、取り組んだ。

漢字練習の取組

漢字の学習

マスターコース
スタート → ① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ゴール

漢字の学習
マスターコース
スタート → ① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ゴール

チャレンジノート
かていがくしゅうのてびき(1・2組)

チャレンジカード(2周目)

チャレンジ学習の取組

中村かのんさん
navimaを使ったチャレンジが「すばらしい」ので紹介します。
①めあて、理由が書いている
②気をつける「ポイント」が書いている
③「感想」や「次の目標」が書いている
みんなこの書き方をマネしてみよう！

みんな navima をするとき マネしてみよう！

チャレンジノートのかきかた
① 空に書き添えるかきかた
② 空に書き添えるかきかた

チャレンジカード(2周目)

チャレンジノート紹介
今回は…
3年生のチャレンジです！

子どもたちから出た取組

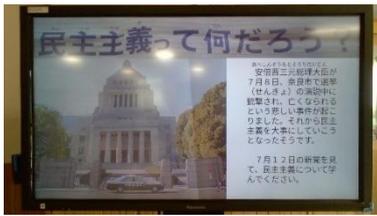


【家庭学習の課題例】
週末の家庭学習でチャレンジノートに取り組もう。

C 新聞・読書の推進

- 委員会活動による新聞の紹介。(電子黒板やお昼の放送)
- 読書貯金で、児童の読書量を視覚化。
- 本に触れる場を廊下に設置。

○月○日の新聞記事からの問題です。ある映画を記念して、大阪の映画館の1日支配人をつとめた人形の名前は、・・・



電子黒板で紹介



お昼の放送で紹介

学年	人数	本をかいた数の合計	平方メートル
1年	98	621さつ	69さつ
2年	148	2171さつ	159さつ
3年	138	741さつ	57さつ
4年	118	1018さつ	92さつ
5年	128	428さつ	35さつ
6年	138	335さつ	27さつ
合計		5314さつ	約738さつ

読書貯金の掲示



場の設定

D ICT 活用スキル向上の取組

- たかたぶタイムを実施した。
- ※たかたぶタイムとは、鷹島タブレットタイムの略称
 - ・各学年で身に付けておきたいスキルを明確化。
 - ・年12回、朝の時間を活用して実施。
- タイピングサイトを精選し、情報モラル教育も行った。



6年生「そこはね・・・」
1年生「なるほど～！」

ソフト	番号	操作	◎:重点指導・活用						自分	先生
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		
①基本操作	1	電源のオン・オフ	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	2	クリック	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	3	ダブルクリック	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	4	ドラッグ&ドロップ	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	5	コピー&ペースト	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	6	名前を付けて保存(出席番号等)							◎	
	7	名前を付けて保存(検索しやすい名前を付ける)							◎	
	8	クラスルームに参加する	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
②クラスルーム	9	クラスルームを見て、課題を確認する	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	10	課題を提出する	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
③写真	11	写真撮影	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	12	撮影した写真の閲覧	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	13	写真を拡大して閲覧	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	14	写真撮影(アップやルーズ)	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	15	撮影した写真のトリミング	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
④動画	16	動画撮影	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	17	撮影した動画の視聴	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
⑤インターネット	18	Webページの閲覧	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	19	見たい内容をクリック	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	20	「戻る」「進む」の操作	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	21	「お気に入り」に登録・削除	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
⑥インターネット	22	キーワード検索(指定された単語)	◎	◎	◎	◎	◎	◎		

たかたぶスキル表

月			1年	2年	3年	4年	5年	6年
6	12	月	(IDと)パスワードを入れて起動	クラスルームを見て、課題を確認する。	名前を付けて保存(出席番号等)	インターネットでキーワード検索(指定された単語)	名前を付けて保存(検索しやすい名前を付ける)	1年生の補助
6	19	月	写真や動画を撮影して閲覧(6年生と写真撮影)	Webページの閲覧(見たい内容をクリック「戻る」「進む」の操作)	クラスルームを見て、課題を提出する。	ドキュメントで文書やアンケート、新聞等の作成	撮影した写真のトリミング(2年生の補助)	1年生と写真撮影(1)
7	12	水	クラスルームに参加し、ジャムボードでお話し(6年生と写真撮影)	タッチペンで入力(手書き)	Webサイトを「お気に入り」に登録・削除	ドキュメントで文書やアンケート、新聞等の作成	キーワード検索(任意の単語)	1年生の補助
7	19	水	写真撮影を拡大して閲覧	写真撮影(アップやルーズ)	ドキュメントを使って、ローマ字入力や改行、文字のフォントの変更	ドキュメントで文書やアンケート、新聞等の作成	スライドで作ったプレゼンテーションアニメーションの追加	キーワード検索(効果的な単語)
9	13	水	タッチペンで入力(手書き)	ジャムボードを使って(はせ書きて)意見交換	タッチペンで入力(手書き)	スライドで3枚程度のプレゼンテーション作成	スプレッドシートのセルや表に数値や文字の入力	ファイルのドラッグ(文字列の移動)や複製、削除、目録の挿入
9	27	水	タッチペンで入力(手書き)	コピー&ペースト	ジャムボードに写真や画像の挿入	スライドで3枚程度のプレゼンテーション作成	フォームで目的に沿ったアンケートの作成	スライドで写真や動画を組み合わせ作成

たかたぶタイム計画表

E 児童の学びの自覚化

- 「児童の学びに関するアンケート」を実施した。
【確かな学力】【自律】【メタ認知・レジリエンス】
- ※児童に結果は示さず、教員や保護者が結果を共有
- ※5月、7月、10月に実施し、結果を比較した。



【確かな学力】

1 授業では、友達や先生の説明を集中して聞いていますか。

集中して聞いている どちらかといえば集中して聞いている
どちらかといえば集中して聞いていない 集中して聞いていない

2 授業では、分からないことや気になることを友達や先生に質問することができますか

質問することができる どちらかといえば質問することができる
どちらかといえば質問することができない 質問することができない

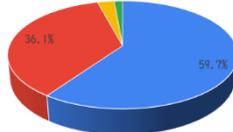
3 授業では、自分の考えを伝えたり、考えの理由を伝えたりすることができますか。

伝えることができる どちらかといえば伝えることができる
どちらかといえば伝えることができない 伝えることができない

1. 授業では、友達や先生の説明を集中して聞いていますか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	
1.集中して聞いている	9	10	7	9	3	5	43	59.7%
2.どちらかといえば集中して聞いている	0	4	5	2	8	7	26	36.1%
3.どちらかといえば集中して聞いていない	0	0	0	0	1	1	2	2.8%
4.聞いていない	0	0	1	0	0	0	1	1.4%
合計	9	14	13	11	12	13	72	100.0%

- 1.集中して聞いている
- 2.どちらかといえば集中して聞いている
- 3.どちらかといえば集中して聞いていない
- 4.聞いていない



アンケートに
答えている様子

学び方アンケート

アンケートの結果

F 保護者・地域との連携

- 保護者に、児童の学び方アンケート【自律】【メタ認知・レジリエンス】と同様のアンケートを実施し、保護者の認識の確認と、意識づけを図った。※6月と10月
- 学習習慣を含めた、基本的な生活習慣の確立を狙い、毎月1回のアウトメディアウィークを実施した。
- アンケートやアウトメディアの取組の結果を懇談会で共有したり、保健集会での児童による啓発活動につなげたりした。
- 昨年度の2月に小学校高学年児童、中学校生徒、保護者の方、地域の方で、「なぜ勉強は必要なのか」をテーマに、未来会議を開催した。



懇談会で意見の交流

2 アウトメディアカード (毎月第3回はアウトメディアウィーク) 年 名前

1 目標を決めよう。

ねらい	期 空	期 空	期 空	期 空	期 空	期 空	期 空
この目的から	5月16日(火)	5月17日(水)	5月18日(木)	5月19日(金)	5月22日(月)	○の数	

2 週間振り返り書きよう。(がんばったこと、気づき、今後がんばりたいこと等)

感想

今後が

アウトメディアカード



児童による啓発活動

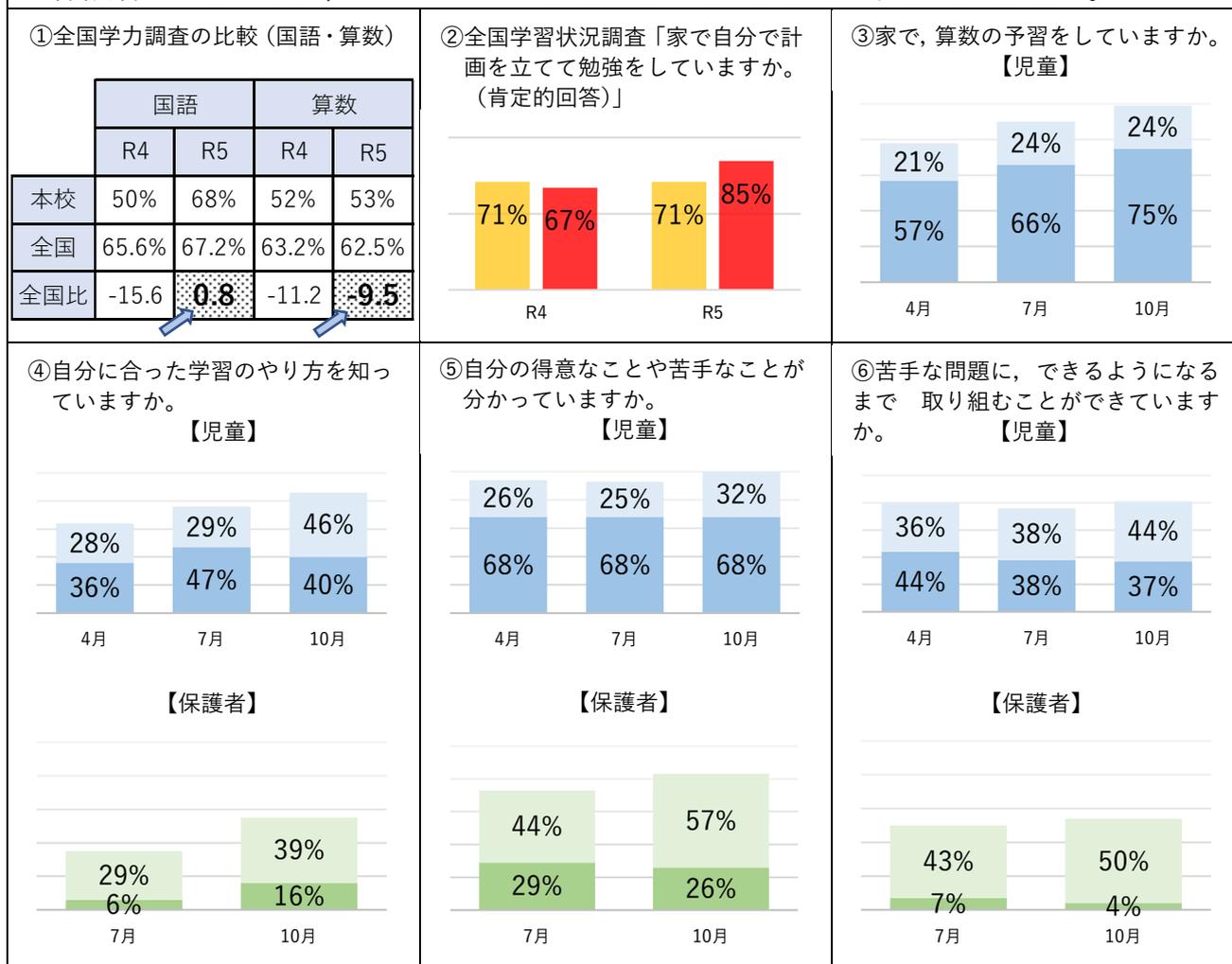


未来会議の様子

成果と課題

1 全国学力・学習状況調査及び学び方アンケートにおける児童の変容

※ ■ 全国 ■ 本校 ■ ■ よく当てはまる ■ ■ どちらかといえば当てはまる
 ※保護者アンケートは、4月には実施していないためグラフに表れていません。



2 本研究の成果と課題

【成果】

- 予習の取組を継続することで、学校での学びと家庭学習がつながり、自分のやり方で課題解決に向かう素地が育ってきた。
- 予習の取組により、45分の授業時間内に習熟の時間が確保でき、児童の困り感に向き合ったり、みんなで学び合う風土を育てたりすることにつながった。
- 家庭学習において、児童に量や質を自分で選択させる学習を充実させたことにより、自分自身の学び方や自分の得手不得手を見つめ直す機会につながった。
- アンケートやアウトメディアの取組、未来会議などを通して、教師と保護者がともに児童を育てる視点を共有することにつながった。

【課題】

- △「確かな学力」について、今後どう変化していくか検証していく必要がある。
- △苦手な問題や分からない問題に諦めずに取り組むなどのレジリエンスについては、これからも継続して指導する必要がある。
- △同じ質問項目であっても児童と保護者の捉え方にずれが生じていたため、児童自身の成長を、本人、保護者、教師が共有し、同じベクトルで取り組む必要がある。
- △これまでの取組を継承しつつ、教師主導で進めるだけでなく、児童や保護者から活動を提案する場を設けるなど、変化を求め続ける必要がある。

